

2-2. 太郎右衛門自然再生地への思い

自然再生の目標設定には、太郎右衛門自然再生地への思いに該当する本文2ページ「1.自然再生へ望むこと」から「5.地域との関わり」までの項目についてまとめたところ、右図のように6項目のキーワードが抽出されました。

第1回協議会ワークショップで議論された荒川太郎右衛門再生地への思いおよびアンケートの結果。

自然再生へ望むこと	昔を思い出せるような自然再生を望んでいる 子供の頃のように自然を肌で感じることが出来る環境に戻したい。 昔のままに戻したい。できるだけ自然を残したい。 自然再生法をバツクに、地域ぐるみで昔の川に戻したい。 湧けない荒川の状況を昔の頃の川に戻したい。 1910年代の荒川を昔の頃の川を再生したい 昔の荒川を再現して、量産や生物に配慮したもの。 長期的に荒川の復元を目標とするならば、上流から下流までの広い視点が必要。 昔のように洪水の度に流路が動く川にしたい 旧川は荒川川に戻すべき 流れる川にしたい 旧流路に水を入れたい 今の流路（本川）をなくして旧流路にずげかえる。 量産の流水を、旧流路に流せるようにできれば。 荒川本川の水をレベルを上げたい 旧川に安定的にきれいな水を入れたい（市野川・荒川ポンプアップ 常時、水が流れている川にしたい環境を無くしてもよい ただの流水路ではなく、周辺の環境とつながった“河川”にしたい。 旧川に必ずしも水を流さなくても良いのではないか 本川（魚がいない）の水を旧流路（魚がいる）に安易に入れたくない 旧川にある植物に対して安易に水を入れて流水にしたい 現状の池として保全したい 外来種対策：植物 人と動物が共生できる自然に ハンノキ林は自然遷移にまかせる 生物の多様性の保全が第一 生き物があふれる場の再生 旧流路の希少動物の保全 旧流路の植物を大切にしたい。例：池・エキサイゼリ（こしこしいない） 自然を待たずに復元することが最大のポイント 建設機土の入れない川にしたい 雑草は荒川の特徴として受け入れたい 旧川も食のたビオトープ化 野生動物保護を最優先すべきと考え、そのために湿地環境の保全を第一に考える。
土地利用	展示（モトクロス場）湿地の（安定した湿地・ガンの生息）再生もあわせて 人の利用：モトクロス場を自然に戻して欲しい 飛行機、モトクロス場を集客の場として利用（自然とふれあいに近代的な遊びも） サーカスボートに伴う騒音対策 スポーツ（飛行機、モトクロス場）文化環境教育の両立 モトクロス場を新築にしたい モトクロス場を買収したい モトクロス場の騒音問題を解決したい ホダが農地法違反で持っていた所を譲渡して再生する。 民有地を買い上げて保護を検討することも必要。 農産施設（ホダ等）の問題。 土地利用についての提案・民地の買収一土地を買い上げる基金を作る 民有地であれば基金対策がうてない。 三ツ又池のようにやるなら、民有地の問題を解決すべき。 自然環境の中にレジャー施設を作るのはどうかと思う。 現在あるレジャー施設をどうするか 河川に対して一定の距離を固有化して欲しい よそ者意識をなくさせる。 人の利用も可能にする 自然を回りつつ人が川と親しめる場所も作りたい ゾーン分けをしたい（ゾーニング、マッピング結果を用いて行う） 農業と自然保全との折り合いをつける。 釣り場のゾーニング・マナー（漁業の設置） 良い環境も悪い環境も共有する。 自然を保護する場と自然と親しむ場を分ける必要がある
自然環境学習	学習教育に活用できるものを。 子供達へ体験させて環境教育を。 環境教育の場として 環境教育がそのカギでは一子供の意見をもっと取り入れるべき 環境教育の場として価値観を変えられるような活用を。 自然文化と環境教育を結び付けたい。
子供達へ	子供達の意見、アイデアを聞く場を。 子供が遊ぶ川にしたい 子供が遊ぶ川にしたい 子供が地域に誇りを持ってなくなっている一地域に誇りを持ってもらうようにしたい
地域との関わり	自然再生事業からまちの活性化 活性化も含めた事業にすべき 河川の再生だけではだめ。制約などの社会的なことも検討しなくては。 地域住民と長期的な目標を話し合う。 モトクロス場を再開したい。 山から海（東京湾）までの自然のネットワークを考えた取り組み

